

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103981
法人名	医療法人社団 健昌会
事業所名	医療法人社団 健昌会 ぐるーぷほーむ新里油木
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市江里町7番21号 (電話) 095-813-0220

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	平成20年5月27日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月14日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	20人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4階建ての	2階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(55,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	1 名	要介護2	9 名		
要介護3	9 名	要介護4	8 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新里内科、新里ネフロクリニック、吉田しんいち歯科、田川療養所
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理事長は開業時から地域の方に支えられ今日があるという思いで、地域の方のお役に立ちたい、高齢になっても必要な治療を受けながら自立した生活をする事を、支えていけるようにと考えホーム開設に至った。市街地から少し離れた比較的交通量の多い通りに面したホーム周囲は、長崎特有の斜面に面して民家が立ち並んでいるが、高層感もなく落ち着いた眺めで道路を挟んで、護国神社の大きな樹木や遠くの眺めは心安らく空間になっている。母体の法人は地域の医療機関として、住民の健康と生活を支える為の各種サービスを完備させ、情報誌も法人とホーム其々に発行され健康に関する事や地域の行事、活動状況等幅広く情報発信している。ホームでは交通事故に対する危惧等の家族の不安を受け止めつつも、入居者の暮らしの拡大や自由な生活を常に考え、家族の方にご理解頂けるよう環境整備等に取り組んでおり、各ユニットも其々に色彩や家具の配置等を工夫し過ごしやすき空間作りを行い、常にケアの振り返りを行いながら前向きに進んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①入居者の手の届く所に新聞紙等を置き声かけをしながら、出来る範囲でゴミ箱折り等して頂いていたが今は入居者自らされている②センター方式でアセスメント記録方法を検討しながら、介護計画に沿った記録を心掛けた表情・言葉・状況等を中心に記録する取り組みを始め検討を続けている③声かけのタイミングや声の大きさ場所に配慮しさりげない誘導を行っている④入居者が服用している薬について内部研修を行ったり申し送り等を確実に行うようにしている</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>①日頃の様子を見て貰ってケアに反映出来る事や評価項目の説明を行い、各職員に記入して貰い項目毎に職員と話し合い、ケアの振り返りや見直しにつながっている。前回評価結果をもとに院長始め理事長等と会議で話し合い、改善に関するアドバイスのもと職員と話し合った。改善の方向性を提示し具体策を全職員で話し合い取り組みを続けている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ケアや家族への報告、接遇等に対するご意見に対しマニュアル作成、勉強会等の取り組み状況や前回評価結果等の報告をしたり、積極的に参加して頂けるよう、出席者の都合の良い開催日を設定したり、資料を事前にお渡しし定期的に開催している。家族の任期を1年にしたり他の家族からも、ご意見を頂けるよう用紙をお送りする等の工夫をし、頂いたご意見は対応策を文書や推進会議で報告している。料金変更の相談や疑問に思った事等を市職員に相談しアドバイスを頂いている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>個人毎のお便りや来訪時に必要に応じ手紙・電話で報告し、ホーム情報誌の“ほっとらいふ”で活動報告について紹介したり、他ユニット間との異動も全職員でケアさせて頂く事を説明し来訪時に紹介したり、新入職員の意気込みや顔写真を掲し顔馴染みになって頂いている。ご意見箱の設置やご意見を頂く為の返信用紙をホーム便りに同封し、定着するよう取り組みを続けると共に「何かないですか」と、繰り返しお聞きし率直なご意見を頂き運営に反映させて行く。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>原爆慰霊の盆踊りや神社の秋祭り、商店街の振る舞いぜんぎい会、自治会の日帰り旅行に入居者と一緒に参加した。事業所の夏祭りや敬老会で近所の方・婦人部の方の踊り、学校帰りの小学生の訪問や中学生が職場体験・詩吟を誦いで来ている。市民大清掃やホーム前の道路を入居者と共に掃いたり、地域のソフトボール大会に職員が選手として参加したり、自治会の消防訓練に参加すると共に近所の火災発生時に、地域の方と協同した消火活動で大火を防いだ。</p>
	<p>重点項目 ④</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の医療法人が地域の方に支えられてきたので、お返しをしたい・何かお役に立てる事はないかという理事長の思いでホームが開設された。開設にあたり法人理念に基づいて職員と一緒に話し合いながら、地域の方々の自立した生活を支える為に、孤立する事なく地域の中で安心して穏やかに暮らす事、地域の行事に参加し暮らしの中で季節の移ろいを楽しんで頂きたいと、ホーム理念と共に各ユニット毎の介護理念を作成した。	○	地域への事業所機能の還元等、理念の中に含まれている思いを、具体的な解りやすい言葉で理念に付け加えたり、地域の集まりや行事、運営推進会議等で地域の方に理念を説明する等、今後の取組みに期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット内に理念を掲示し申し送り時に唱和すると共に、毎月のミーティングや勉強会で理念に照らし合わせて考えている。自己振り返りノートを作成し、入居者を敬う心を忘れないよう心掛け実施したケアの振り返りや、日々のケアの場面で気づいた事や気になる事、管理者が疑問に思った事を職員に伝えたり、個人面談の中で指導しており、職員は常に理念を意識して取り組んでいる。	○	ケアの振り返りをもとに実践の中で更に理念を活かしていくと共に、他の良い所を学び取り入れたり、心に響く理念の伝え方等を常に探し続け、新たな試みに挑戦していきたいと考えており、今後の取組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	原爆慰霊の盆踊りや神社の秋祭り、商店街の振る舞いぜんざい会、自治会の日帰り旅行に入居者と一緒に参加した。事業所の夏祭りや敬老会で近所の方・婦人部の方の踊り、学校帰りの小学生の訪問や中学生が職場体験・詩吟を謡いに来ている。市民大清掃やホーム前の道路を入居者と共に掃いたり、地域のソフトボール大会に職員が選手として参加したり、自治会の消防訓練に参加すると共に近所の火災発生時に、地域の方と協同した消火活動で大火を防いだ。	○	地域活動として未だ参加していないが年末の夜警に、先ずは職員から始めたり、自治会の敬老会への参加等、地域の方々と話し合いながら取り組みたいと考えており、地域との付き合いが更に拡大される事に期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は日頃の様子を見て貰う事でケアに反映出来る事や自己評価項目について説明し、各職員に記入して貰い、項目毎に職員と話し合い管理者が一つにまとめていく中で、ケアの振り返りや見直しにつながっている。前回評価結果をもとに院長始め理事長等と会議で話し合い、改善に関するアドバイスのもと、改善の方向性を提示し具体策を全職員で話し合い取り組みを続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	洗濯方法や遠方の家族への報告、接遇について等のご意見を頂き洗濯マニュアルの作成、ホーム便りで個人毎の生活状況をお知らせしたり、勉強会を行う事の取り組み状況の報告、指名してご意見や一言お話し頂いたり、出席者の都合の良い開催日を設定、次回議題に関する資料をお持ちしたり来訪時にお渡しし、2ヶ月に1回の定期開催が出来ている。他の家族の出席を頂ければというご意見もあり、任期を1年にし交替の際は前回議事録を読んで参加して頂いたり、家族のご意見を書いて頂けるよう用紙を同封する等工夫している。	○	地域の魚・肉屋さん等ホームに関わって頂いている方や、回覧板を持って来て頂いた時に、世間話をしながらご意見を頂ける様に積極的に関わっていきたくており、今後の更なる取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ショートステイの開始に当たってや、料金変更の相談や疑問に思った事等、何かある時には市職員に相談したりアドバイスを頂いている。地域支援ネットワークに参加したり、認定更新手続きの際に市福祉保健課や介護保険課に伺い、ホーム活動状況等の定期的な情報提供を始めた所であり、今後も積極的に取り組んでいく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方で来訪が難しい方には個人毎のお便りで、暮らし振り等について2ヶ月毎に担当者がお知らせし、来訪時や必要に応じ手紙・電話で報告している。預かり金が少なくなった時に収納帳の確認、口頭や電話・手紙で報告している。年4回発行されるホーム情報誌の“ほっとらいふ”で活動報告について紹介している。他ユニット間との異動も全職員でケアさせて頂く事を説明し安心して頂き、来訪時に紹介すると共に新入職員の意気込みと顔写真を、全ユニット内に掲示し顔馴染みになって頂けるよう今後も継続していく。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やご意見を頂く為の返信用紙をホーム便りに同封したり、来訪時や計画説明時に「何かないですか」と繰り返しお聞きし、職員の言葉使い・態度・表情・対応等や、ケアに関し家族が気にされている事等のご意見を頂いている。職員との話し合いや法人内他部署に相談し、対応策を文書や推進会議で報告し、市等の相談窓口も入居時の説明と繰り返し伝えている。お便りに同封した返信用紙が定着し、率直なご意見を頂けるよう取り組みを続けていく。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要時や適性等の希望に応じた法人内異動や、基準以上の人員配置、休みの希望、準職員の時間給から月給制・賞与等、職員定着の為に勤務条件を改善している。状況に応じ他ユニット管理者が個人面談や悩みを聞いたり、相談しやすい雰囲気作りを行ったり、飲み会や法人全体・他事業所との交流や、協議会の交流等に積極的に声を掛けている。ケアや質向上の為にユニット間の情報交換や、随時の対応が出来るよう他ユニット勤務も組み込んでいる。管理者が出来るだけ新規職員と一緒に勤務し情報提供・指導を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院長は職員の質の確保に向けた育成へ積極的に取り組み、事業所内で会議の際に勉強会を行ったり法人内での合同内部研修に参加している。市等や協議会や医師会の救急蘇生法、防火管理者講習、ケア技術等の外部研修会参加の声かけや希望者が参加したり、資料の掲示・回覧や必要に応じた配布や勉強会で伝達している。事業所全体として年間の研修計画があり、長期目標として方向性等が職員によっては明確になっている。	○	各職員の立場等に応じて管理者間で話し合っているが、職員毎の育成計画書の立案迄には至っておらず、研修・育成の計画を個々の職員と話し合い明確化し、書面に残していられるよう期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	院長は同業者との連携の重要性を認識し他ホームの情報収集や、良いところを吸収して活かすように管理者に助言している。認知症グループホーム連絡協議会に管理者や職員が参加し、事例の合同検討や職員の交流会に参加したり、相互訪問により自分達のケアの再確認を行ったり、日常的な情報交換を行っている。校区のグループホームと行事や勉強会を合同開催し、協力関係が強められている。	○	他ホームとの相互実習の計画を立て、今後長期的に取り組んでいきたいと考えていると共に、行事等の合同開催を通じた協力関係の強化と、更なる活動範囲の拡大への思いがあり、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	小規模多機能事業所を利用し在宅生活をされていた方が入居する際、入居前に顔馴染みの関係を築く為に管理者が訪問したり、見学に来て頂いたりホームについて説明し不安の解消につなげている。入居後は家族や状況に応じて顔馴染みの方に頻りに訪問して頂いたり、行きつけにしていた店や散歩コースにお連れしている。顔馴染みの職員がいた事も有り気に入って頂いたり、本人の信頼の高い家族の方が入居を勧めたり、説明をされ納得の上で入居されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からのしきたりで「くんちの時は“ざくろなます”を作る」と、食材・味付けや昔の地域の様子を教えて頂いたり、戦中・戦後の苦労話をお聞きし物の大切さや今が恵まれている事を感じている。職員が腰痛で腰を叩いていると体調を心配されたり、入居者の足マッサージの時「元気出さんばよ」と、励ましながら職員の体を擦ったり、援助をした時に「ありがとう」と思いやりの気持ちの大切さを学ばせて頂き、互いに支え合いながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起き上がりが困難な方の「トイレで排泄したい」という思いに、あせらず少しずつ信頼関係を築き、痛みの具合や表情を観察し行動している側で、その時に必要な後押しの量を決めながら関わり、離床時間の延長・自力での立ち上がり・移乗につなげられた。家族や知人にお聞きし行動・表情から思いを汲み取ったり、入居者同士の話を聞き逃さないようにしたり、入浴や散歩等ゆっくり話をする時間を作って本音を聞けるように関わり、今したい事・興味ある事を探っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が『その人らしく暮らし続ける』為の課題は個別・具体的であるが、目標が大括りな方や『地域で暮らす』視点が盛り込まれていない方、専門用語の使用や行われているケアが、全て介護計画に記載されていない方がいる。計画作成時に本人・家族と話し合っているが、1ユニットでは「お任せします」と言われる事もあり、家族のご意見等が十分に反映されていないと感じている。職員の気付き・意見や医師等に助言を頂き、入居者本位の計画を作成している。	○	課題に沿った個別・具体的な目標や、外出が難しい方も『地域で暮らす』為に、地域との接点を探しながら目標に盛り込み、全職員のケアの方法・留意点を統一する為にも、現在行っているケアを介護計画に記載したり、個別の介護手順の作成や易し言葉に置き換える等、入居者自身の計画となるような取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行うが、本人・家族のご要望・状態に変化が生じた場合は、設定した時期の前でも見直しを行い、新たな気付きやご意見が出された場合も臨機応変に計画の見直しを行っている。状態等の変化が見られない方の計画についても、毎月検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護職で24時間待機の体制が整えられ何時でも相談でき、必要に応じた対応やその時々に応じた通院・送迎や、入院時の情報交換やお見舞いに伺ったり早期退院につなげている。短期利用共同生活介護や必要に応じ外泊の準備・日程調整・送迎を行っている。近所のお気に入りの美容室に行ったり、家族と相談しながら自宅への送迎や職員と一緒に自宅で過ごしたり、初盆の為に島原迄帰省したり、友人の墓参りに行く等の特別な外出支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし、以前からのかかりつけ医に月2回往診に来て頂いたり、同意と納得の上で協力医療機関で受療して頂き、往診に来て頂く方もいるが職員が通院介助を行い、特に変化がない場合も速やかに報告している。かかりつけ医の受診は家族に通院介助をお願いし、事前の情報交換や受診結果をお聞きしたり、必要に応じ医師と電話連絡を行ったり、何時でも相談できる関係作りが出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を入居時に説明し入居者・家族の意向を把握し、重度化や終末期に事業所で対応できる範囲等について、医師や看護職・職員と話し合っている。入居者の状態変化等その都度、本人・家族と繰り返し話し合いを行い、ご希望で入院されることもあり、ホームでの看取りの経験はない。	○	看取りのケアについてや尊厳について等、今後もその時々に応じて勉強会を開催する事で、職員の知識・精神面支援にもつながると考えられる。終末期に向けた方針を入居者や家族と共に共有し、ケアや精神的支援を行いたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目上の方に対する尊敬の念を持って接するよう意識し、自分では敬語を使っているつもりでも会話が盛り上がった時に、言葉使いが乱れる事もあり自分で気付き言い直したりしている。ADLの低下によって失禁傾向があった方も、排泄介助時に「あつちにいいですか」等、他の方に気付かれないよう自尊心・羞恥心に配慮し、さりげなく声かけし徐々に布パンツに変わっていった。個人情報の取り扱いについて全職員が理解し、漏えい防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課で掃除・体操等を皆で行うが無理強いはせず、起床や食事その時の体調やペースに合わせ、外出を好まない方も好きなおやつを買いに行ったり、楽しいと思える雰囲気作りで入居者に楽しんで頂けるようにしている。声かけも「今日は天気が良いから散歩に行きたいですね」と、気持ちが外へ向くような関わりをし、ユニットに拘らず職員で協力合っている。希望を表わされない方も居室からフロアへ出て頂き、次は屋外へと少しずつお誘いし気分転換を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望をお聞きし一緒に献立を立て味見や盛り付け、食器拭きやテーブル拭き、米とぎ、野菜の皮むき等行って頂いたり、来客時に入居者がお茶を入られたりする。旬の食材や皿うどん等の郷土料理、節句餅や節分豆を採り入れたり、疾病により制限がある方も見た目があまり変わらないよう盛り付け方を工夫している。誕生日はご本人の好物でお祝いしたり、家族会や行事の時は入居者と一緒に食事を楽しんで頂いており、今後も継続的に取り組んでいきたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯・回数はある程度決めているが、散歩やその日の活動で午前や午後に変更したり、時間によってはシャワー等に対応しているがほぼ希望に沿えている。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温等の好みに合わせた個別対応や、入浴を嫌がられる方も異性職員の声かけで入られたり、1人ずつの入浴や同性介助等の羞恥心にも配慮している。温泉に行くユニットや菖蒲湯・ゆず湯、法人施設の大浴室を利用したり楽しんで頂けるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意な事を把握し繕い物・ゴム通し・パッチワーク、洗濯物たたみ、折り紙・貼り絵、料理に関する作業の担当やメニュー書き、チラシ・新聞紙のゴミ箱折り、メダカの餌やりや毎食前の挨拶や体操時の掛け声等、できる範囲の役割を持って頂いている。箏やピアノ演奏や歌を歌ったり、音楽鑑賞、俳句、入居者同士で寝酒を楽しんだりピアス等のお洒落を楽しんだり、入居者の趣味・習慣等を活かした楽しみ事を持って頂けるよう積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近く的美容室での顔剃りや床屋に行ったり、コンビニやデパートにお菓子やビールを買いに行く等、希望をお聞きしたりしながら日常的な外出をしている。天満宮にお参りに行ったり朝・夕の散歩等、戸外で過ごして頂く機会を積極的に作り、季節を感じて頂き気分転換やストレスの発散、五感刺激として外出を活用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21:00～6:30迄の防犯上の施錠以外は玄関の出入りは自由だが、ホーム前は交通量も多く危険という家族の思いから、エレベーターはユニット間を自由に往き来する以外は、暗証番号化され1階玄関へ下りる事はできない。プライバシーの侵害や行動制限に配慮しながら裏口にセンサーを設置し、エレベーターを自由に使用する事について、身体拘束等に関連付けて繰り返しお話しているが、具体的な安全策は未だ見つかっておらず前向きに検討を続けている。	○	鍵をかけない暮らしが大切である事や身体拘束の一部分になる事、自由に出入りする事のメリット・デメリット等、家族の方と十分に話し合い検討していこうと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設当時は消防署・消防団と合同訓練を行ったが、現在は夜間の火災発生を想定し、当日勤務者・入居者・町内の方を交え避難訓練を行っている。自治会長を起点に災害時に駆けつけて頂く連絡体制があり、自治会主催の地域での訓練を基に職員が煙が上がっているのを発見し、地域の方と一緒に消火活動を行った事もある。地震・風水害に対するマニュアルを作成中であるが、災害発生に備えて食料等の物品は特に準備はされていない。	○	マニュアルをもとに地震や水害等の状況を想定した、防災訓練にも取り組んでいきたいと考えられている。更なる実践的な訓練の取り組みや、災害発生時の備蓄について必要な物品や量等、職員や法人とも話しあい検討される事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合わせ食材・調理法の変更や丼物等は別皿に盛り、制限食の時は盛り付けや、ご希望をお聞きしテーブルを離したりミキサー食や固形食等、本人に合わせた食形態を検討し支援している。水分制限がある方の一日水分量を、ペットボトルに準備した事で自己管理が可能になったり、1400Kcalを目安に主食の増減や盛り付け量で対応し、摂取量の記録や定期的な体重測定、提供した食事の記録を定期的に、栄養士・看護職にチェックして貰ったり相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり季節に応じてひな壇を飾り付け、ユニットによってはフロアの一角に絨毯を敷いたり、ソファやテーブル・椅子の配置を工夫して、空間が広く感じられるよう配慮し寛いで頂いている。日射しの調整に遮光カーテンを利用したり、昼光色の灯りや風呂場の入口に暖簾をかけたり、木製家具等で温もりや和を大切にしている。テレビの音が大きくなる事もあるがその場に応じて調整したり、トイレは常に換気扇を回したり消臭剤の使用や、窓を開け空気の澁みがないよう換気を心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談しながら、使い慣れた箆笥や鏡台・椅子、テレビ、お針箱、お位牌・お地藏様や家族の写真等、馴染みの物を持って来て頂き家族と一緒に、使いやすいように配置したり模様替えをして頂いている。馴染みの物をあまり持ちこまれていない方も、家族にお願いして持って来て頂いたり、行事の時の写真や手作りの作品等を、ご希望に応じて飾っており、今後も自宅に居る時と変わらないように居心地良く、過ごして頂けるよう工夫し支援を継続したい。		